

新年のご挨拶

2017年の輝かしい新春を迎え、町民の皆さまとともに心からお喜び申し上げます。旧年中は、皆さまから町政諸般にわたり特段のご理解ご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

去年は、本町が明治30年の戸長役場設置から120年の節目を迎え、9月には厳かに記念式典・祝賀会を開催し、先人・先達への感謝の誠を表し、新たな飛躍への決意を誓ったところでございます。第4次厚真町総合計画、第7次厚真町農業振興計画、厚真町教育振興基本計画など、まちづくりの指針となる各種計画がスタートした節目の年でもあり、平成27年度に策定した地方創生総合戦略の実践と本町の持続的発展に向けてさまざまな取り組みを行ってまいりました。

上厚真地区では宮の森こども園、厚南児童会館が完成し、本郷地区では新たに小規模多機能ホーム「ほんごう」が間もなく完成するなど、福祉施設の充実を図ってまいりましたが今後はさらに、子育て環境の充実とともに包括ケアシステムなどの早期構築を目指してまいります。このほかに、子育て支援住宅の増棟や「きらりタウン」、「フォーラムビレッジ」の分譲も堅調であり、本町の注目度が増してきていると感じています。

厚幌ダム建設工事は今年の秋から湛水実験が開始され、関連する厚真川の改修工事、国営農業用水再編対策事業、道営ほ場整備事業などの生産基盤整備も着実に進められており、統合簡易水道の建設状況も含めて町民の悲願であった水害のない安全で安心な町の実現と、効率的で汎用性の高い生産基盤が整いつつあります。TPPを取り巻く国際情勢は一気に流動化しており、新農政への転換を急ぐ国政下にあって主業農家の不安は尽きませんが、安全で安心な生産体制の確立や消費者の信頼と評価を高める不断の努力が大切です。

規模の経済や大規模・集中型都市社会の限界や脆弱性が指摘される中、循環型田園社会の価値が再評価されてきています。全国町村長大会において「暮らしを中心にした地方の豊かさやかけがえのない自然環境が脱工業化社会の受け皿にならなければ」と東京大学の神野直彦名誉教授が、げきを飛ばされていました。まさに、生産空間と生活空間、自然環境に恵まれた本町の潜在力が拡充されつつある中、「人を育て・人を残し、豊かな森と海、輝く田園を次世代へ」を普遍的テーマとして「田園回帰1%戦略」を着実に実践し、押し寄せる人口減少社会に立ち向かってまいりたいと思います。

厚真町にとって2017年が大いなる飛躍の1年となるよう、また、職員とと

もに全力を傾注してまいりますので、皆さまのご支援ご協力をお願い申し上げます。

結びに、町民の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

平成29年1月

厚真町長 宮坂 尚市朗